

研究機関名：東北大学

受付番号：	2010-60
研究課題名	新規生理活性ペプチドと受容体の内分泌器官と内分泌腫瘍における発現と血中濃度の検討
研究期間	西暦 2009 年 4 月（倫理委員会承認後）～2014 年 3 月
対象材料	<input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 手術時に得られた病理材料である内分泌腫瘍組織（下垂体腫瘍、副腎腫瘍、他ホルモン産生腫瘍）） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input checked="" type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ _____ ）
上記材料の採取期間	西暦 1985 年 5 月～2008 年 12 月
意義、目的：	生理活性ペプチドには、エンドセリン、ナトリウム利尿ペプチド、ウロテンシン、オレキシン、アドレノメデュリン、キスペプチン、レニン等がある。生理活性ペプチドについては、1)血中濃度の測定が検査上のマーカーとして有用である可能性、2) 内分泌腫瘍組織からの検出が、病理診断上有用である可能性 3) ペプチドの受容体の発現をふくめて検討することにより、腫瘍や正常器官における病態生理機能が明らかとなる可能性、等が考えられ、その研究の進歩が、医学・医療に大きく貢献しうると考えられ、公衆衛生の向上のために特に必要である。
方法：	パラフィンブロックとして保存してある病理組織は、薄切して、免疫染色にてペプチドとその受容体の発現を検討する。凍結保存してある組織あるいは血漿から、ペプチドを抽出して、ペプチドの濃度をラジオイムノアッセイ法にて測定する。組織からは、RNA あるいは蛋白を抽出してノーザンブロット法、RT-PCR 法、ウエスタンブロット法にて、ペプチドと受容体の発現を検討する。DNA の解析は行わない。対象とする生理活性ペプチドは、エンドセリン、ナトリウム利尿ペプチド、ウロテンシン、オレキシン、アドレノメデュリン、キスペプチン、レニン等である。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻 内分泌応用医科学分野 高橋和広 TEL 717-7482